

手段トノ二要件ガ合一セルトギニノミ、「誘惑手段」タルモノガ、  
コノ二者ノ要件ガ具備スル場合ニハ、積極的作爲ヲツネニ意味セ  
ザルヲエナイ」タルコトヲ必要トスル。不作爲ニヨル「誘惑手段」  
ハ本條一般ヲ通ジテ成立シエナイ」  
ト論ジ、更ニ結婚誘拐罪ニツイテ

「結婚誘拐罪ト營利ヲ目的トスル略取誘拐罪トノ差異

1 結婚誘拐罪ニアツテハ、營利目的ノ誘拐罪ト異リ「告訴ヲ待ツ  
テ之ヲ論ズ」(刑法第二二九條前段)。營利目的ノ誘拐罪ノ  
場合ニアツテハ、親告罪タラズ。

2 結婚誘拐罪ニアツテハ「被拐者(又ハ被賣者犯人)ト婚姻ヲ爲  
シタルトキハ婚姻ノ無効又ハ取消ノ裁判確定後ニ非ザレバ告訴  
ノ效ナシ」(刑法第二二九條但書)

從ツテ既ニ婚姻シタル以上ハ、民法上ノ婚姻無効取消ノ裁判  
確定後ニ非ザレバ告訴ノ效ナシト規定シテ、一應告訴權ヲ阻却

スルコトニヨツテ、コノ婚姻ヲ少クモ刑事上一應有效ニ解  
スル事ニシテキル。蓋シコレ、行爲ノ性質ガ婚姻ニアツテ、  
目的ガ營利ノ爲デハナイカラデアル。」ト論ジテ居ル。

(2) 相手方ノ合意承諾ヲ錯誤ニ因リテ決定セシムル結婚誘拐罪ノ詐  
欺行爲ハ、積極的ノ作爲タル事ヲ要ス。單純不作爲ノ詐欺行爲  
ヲ包含セザル事モ亦、學說、判例ノ一致スルトコロデ、昭和八  
年七月十五日法律新報第三三二號所載ノ判例ハ「單純ナル不作  
爲ト詐欺罪ノ不成立」トイフ見出ノモトニ「一家屋賣買ニ當リ賣  
主ガ該家屋ノ係争事情ヲ買主ニ告グルニ於テハ買主ニ於テ買受  
サルベキコトヲ認識シタルニ不拘其ノ事實ヲ告ゲザリントスル  
モ相手方ノ質識ニ對シ右事實ヲ否認スルガ如キ行爲ヲ爲シタル  
ニモ非ズ只單ニ沈黙ヲ守ルモノニシテ即チ單純ナル不作爲ノ存  
スルニ止マリ而シテ此ノ不作爲ハ法令上慣習上又ハ契約上其他  
法規上ノ一般條理トシテ存在スル告知事務ニ違反スルモノニ非